

コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの確立

行動規範

1999年4月に制定した行動規範は、日本国内のみを視野に入れた内容であり、グローバル経営を展開する上で、内容そのものがそぐわなくなってきたことから、2014年4月にニチレイグループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として「国内外統一版の行動規範」を制定しました。今回の改定では、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考にして「人権の尊重」を新たに項目立てして第一優先に位置づけています。また、グローバルコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」なども盛り込みました。

ニチレイグループの行動規範目次 (2014年4月改定)

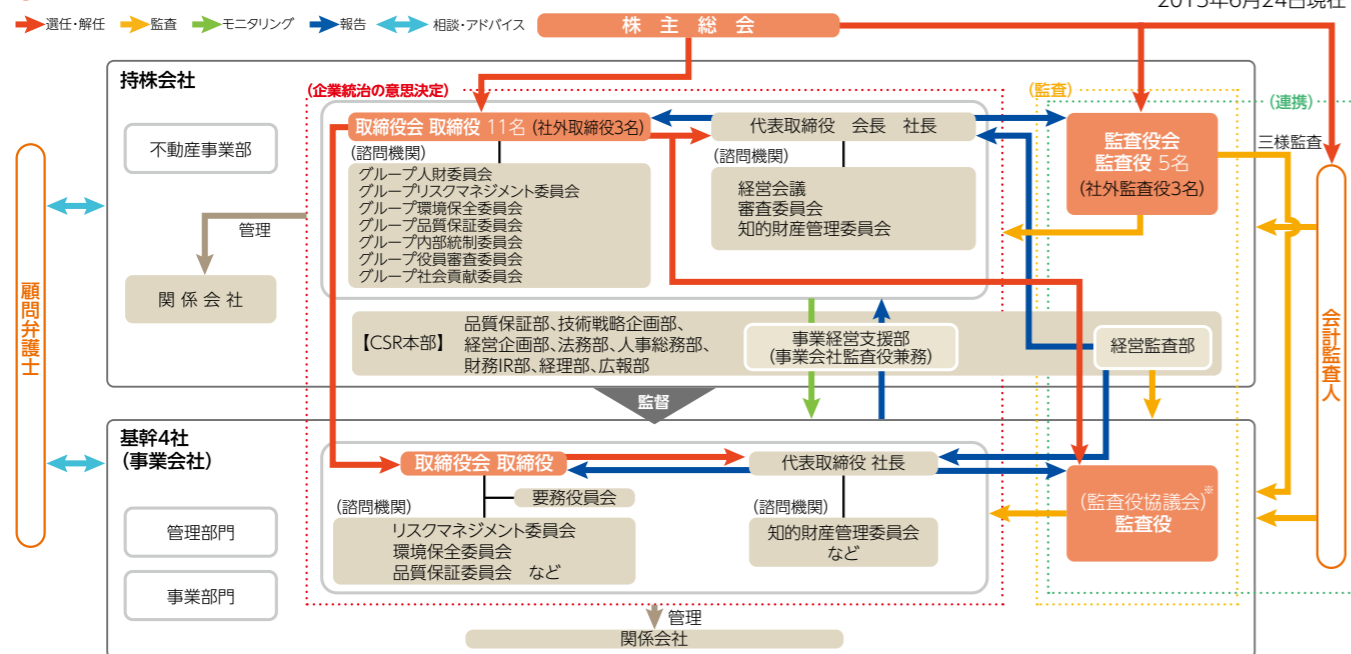
1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
2. 環境保全への取り組み
3. 法令および社内規程の遵守
4. 会社財産の管理と保全
5. 会社財産の私物化の禁止
6. インサイダー取引の禁止
7. 財務情報の信頼性の確保
8. 情報の管理と利用
9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
12. 行動規範の遵守と報告・相談について

業務執行・経営監視

監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催しています。社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関する各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に関するモニタリングを行っています。監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するとともに、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たす仕組みを構築しています。また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼務するとともに、経営進捗状況などを毎月持株会社へ報告するほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

加えて、2015年3月に公表された「コーポレートガバナンス・コード原案」や、関連して東京証券取引所が進めている制度整備を踏まえながら、持続的成長に向けた自律的な取り組みを進めています。

○コーポレートガバナンス体制図



第三者意見

ニチレイグループ CSRレポート2015を読んで

重要なトップメッセージ

ニチレイグループは環境やCSRの価値を重視して企業活動に取り組んできたことで定評のある企業です。その特徴はトップメッセージに現れており、品質保証による食の安全・信頼、持続可能な事業活動、働きがいの向上について、大変詳しく具体的に説明されています。トップメッセージがCSRレポートにおいて具体的に示されることは非常に重要で、CSR経営を有効に促進する最も重要な指針であると同時に、対外的な企業への信頼性を増します。

持続可能な調達

ニチレイグループの数多くのCSR活動の中でも、持続可能な調達の活動は特に注目されます。CSRはサプライチェーンあるいはバリューチェーン全体で実施すべきということが世界的な潮流ですが、ニチレイグループの取り組みはその先端を行くものとして、大変重要です。今後は個別活動の紹介にとどまらず、このような取り組みを、どのような基本方針のもとで体系的に進めていくのかについても、開示して頂きたいと思います。調達段階だけでなく、トップメッセージで示されたように、バリューチェーン全体での活動をまとめるのもひとつの進め方と考えます。

共通価値の創造

今年度の報告書では各事業会社が顧客価値の創造ということを取り組みを紹介されています。それぞれ、

神戸大学大学院
経営学研究科教授

國部 克彦



特徴のある取り組みで素晴らしいと思います。今後は、これらの活動がどのような全体的なコンセプトで進められているのか、について説明があればよりメッセージを明確に伝えることができると思います。さらに、「顧客価値」を追求するだけでなく、何らかの社会的課題を解決して価値が創造されるのであれば、それは「共通価値」としてCSR活動の中心に据えることができると思います。

CSRマネジメントの浸透

ニチレイグループのCSR活動では、環境、品質保証(食の安全・信頼)、働きがいの向上、社会貢献の推進などについては、基本方針が示され、CSRマネジメントが実施されていると見ることができます。今後は、顧客価値の創造や持続可能な調達についても、そのように体系化されることをお勧めします。このような新しい問題については、マテリアリティ(重要性)の分析を実施され、プライオリティを明確にする必要があるでしょう。マテリアリティ分析を通じた価値創造とCSR経営の関係性の強化は、統合報告フレームワークでも見られるように、今後ますます重視されますので、是非検討して頂きたいと考えます。

第三者意見を受けて

國部様には本年度も貴重なご意見を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、6つの責任を軸にCSR活動を進めております。それらの活動のうち、環境、品質保証、働きがいの向上、社会貢献の推進については基本方針が示され、CSRマネジメントが実施されているとの評価をいただき、大きな励みとなりました。またご指摘いただいた、顧客価値の創造や持続可能な調達についての体系化は、既に当社グループ内で開始している取り組みをベースに、今後さらに発展させてゆくことを計画しております。顧客価値を創造することが、ひいては社会的課題を解決する「共通価値」となるよう、ステークホルダーの皆さまと対話を重ねながら、CSR活動の推進に取り組んでまいります。

今後ともご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



(株)ニチレイ
取締役執行役員
CSR本部副本部長

田口 巧